



白川家政録全  
補見

73  
6444









門73  
號6444  
卷

十四年七月吉辰

鎌田村幸丸氏東京土産

上野郷宿

大村政雄

936

夫中内之持  
各位副中  
持之

白川家政録巻之三

一 百老の物後之實承の初め天下乃諸侯と  
りて已君子十哲人稱之何々所謂に君子ハ  
紀伊大納言頼宣郷聡明ゆて能く人志  
善哉多り大智の念を是と教りふし道学  
と以てせよ天下に善ふ人有るは以て  
仁是乃公卿く順玉の民之有り一ハ安し  
他をふし只其人の仁是の及ぶ所也松平  
彰を帝光政自身の言行に補古の君子ハ  
必能謙徳深く身は倭約とせよ小民を教

白川家政録  
大村政雄  
印







曾て山崎の處とて玉山講義とよま  
しめとて改修とて隨地會津改治とて  
小幡隆親の時ふつと保と督と軍糧代  
依り兵急と備へ風云記と依り存ふ  
已境と知り社会と之租税と寛く  
漕運乃法と制し訟とあふく人端ふつ  
事修代家し監候と至りて封内と備行  
やめ下乃修と上に進み凶年の防とあ  
不忠不孝の者と罰し孝子順孫と施し  
租代ゆりし一窮しを海とあふりし是代

繼し旅宿病ひ有る則是と扱ふり  
るく一人の職守りては家不十五条の衆例  
と毎しつ子孫不達はこれい  
將軍家總公と補依しなむ其任小徳た  
りし留し其後之世大和と廣之松平日向  
信之相馬長門と忠胤板倉東市と平太服部  
信俊と鈴木伊左衛門河野権左衛門五味左九平木  
有某世人と乃行義と息ひ就中取後と之  
こあふん事代日夜ふりて不也就ふ某更  
田安乃家ふしそ人成多くの今附合すと



通智書より云々人と相と云々して井の内陸の  
たりし頃の幼年の時大屋遠にありすれは  
古儀方助と稱し朱子學を習ひしと云々  
史書に記し居りしと云々亦亦治國の事云々  
擬し居りしと云々又其事と云々  
る今も遠く世より身を水練りやと云々  
こし不為家の四君子と云々是より自  
身國政の事と云々成りたると云々  
して執行すると云々我々の存あり乃有と云々  
國々各の事ありと云々を記し居りて事

ありし頃の事と云々成能と云々依りて  
一通り成りしと云々  
亦亦風と云々大徳院極心と云々  
承一と云々知れしと云々所不ありと云々  
後年行儀役人けと云々相勸めしと云々  
安んじしと云々今又改く中後と云々  
ハ云々之と云々物と云々早務の時代の風俗  
有る云々大徳院極心時代の天下統一  
也云々此の風俗と云々古風と云々  
之と云々亦亦久矣世の風俗と云々



おのりて蒲花扱一むくわくわくかきまふ所  
お細く風儀の類敷り成る古縁改く久  
せさうににてい言し我ちあり者と後役人を  
句端通有外根のともし知しやまを言  
い高雨賦亦有し句ふ 即先代の世目と  
心く言 仰付まよるまよふくわくわく  
小話さふふて私く言を降とりのまくくハ  
あり我り月と日くく各の所と後をくま  
乃後儀と勤るんらくくく 若事のみ  
んはくくくおあやう知をらる事とく

一  
さる書能く是令く各討くこの良あり  
いさし  
おを職分くお病とく勤め何なりと  
くくくし暇ありのと登庸く 世儀小ま  
りくおおまふい枕くも人お思急有る 吾  
り松さくを何なり家筋乃おをりてを  
具人おより罪中分は是ホハ言くくく  
いさしよくはをさる父祖の職に記し  
お病の廣きりりくく云く揚名のおを  
くくくくくくくくくく其は是を  
お戸位がくくくくくくくくくく



居る不世に感と辞しやし事なるぬ  
老中一乃んゆ人を知事なるは是の  
おもひの多ししては漢乃世ふてさ  
人を知らずし蒲何ふとて只ま  
人を知らずしけく有一人と  
ゆくは竹後と流ふと挙げ用  
ぬくはゆつと同列とて和順  
志事乃志とて家中の仕事  
事なるは是唯宝儀とて出  
成り下なるはとて和順

感と有くは巨と格感と事ひ  
叙成研表向る心安と流ふ  
和せとて不有し和ひとて  
人安くの出余ももふとて  
りしぬ事なるはぬとて思ふ  
中後するふく分るは家乃  
人と知し一人わくは知事  
三人安く三人の知事とて  
か人乃ゆわくはあし七人  
目とて和とて見後乃同



心りて兼て...  
く用ひし...  
せり...  
中一人と...  
象子...  
之つて我親...  
り...  
と古老の物...  
常憲院...  
心りて兼て...  
く用ひし...  
せり...  
中一人と...  
象子...  
之つて我親...  
り...  
と古老の物...  
常憲院...

せりて兼て...  
く用ひし...  
せり...  
中一人と...  
象子...  
之つて我親...  
り...  
と古老の物...  
常憲院...  
心りて兼て...  
く用ひし...  
せり...  
中一人と...  
象子...  
之つて我親...  
り...  
と古老の物...  
常憲院...



感る事素修承乃長たるもの如くも成りて  
お 尚於風やしくいそくを又成りまじき成  
知らざる外ふくい家を長入の成とらり士  
有らぬ立身やをむいふくい成入の事有る  
りし是と見ゆべ我成を乃好じふく成通  
りしは學問と好けは學問乃事し成入  
又極成やしくい素の端端鞠連歌能得る  
何多ゆきしと成老のまじく道と我も仕成ひ  
おまじあし一五入いひ方おくも成意乃事ありと  
あまいしと成よりい志ふし成成成ひは人

ころのまじしと思ひ成深小志ぬし成出成  
いふつわあふしとの成邦家とらりしと成  
五としとく何とせし成成しと成成り  
りの有より五とし一と成法や物成しと成  
何れも成り成をぬと見ゆりも有は成成  
まじ成り成り成り成り成り成り成り成り  
人と捨成されし成良工の成と成しと成成  
成りし何れも用ふ成事一と成の成は成成  
む成成の内成り成表向利成ふよ成り成  
しと見ゆり成の成り成り成り成り成り成り  
成事成思成り成り成り成り成り成り成り







りしてはたふあまも同家と相ま  
りし物にまゝひる儀は長政乃とあり  
しものり候し附あふたのり一室ありし不  
況まをある儀のあふ相又佐士の儀預ま  
納不あをやくまひ下知とありしや  
あふひに擲まし肝慰ふ道程も能くま  
擲那通す候ころにおおをさうまはし  
あふりし儀を行し和ひあしお候の上は  
と極るし一列斗のり角をてえ扱  
し仕預し附まをさくせしぬまふし書  
子

此礼の預も筋違さうやう備同ハ他  
より是とさうしあ中同さうさう成  
あ候とさうあふしとさうさう  
あを候ししきさう病身とさうに  
さ乃隠指候まき具子細とさう  
と一通さう候しと極ま候筋違  
のり例の儀候とさうしとさう  
調度と様と候しと具とさうと極の  
りしとさうしと同役お候の上と  
答候しとさうしとさうしと  
とと筋違しとさうと同列及







將軍殿一對一遠なきは、  
いまどおろしく小替り外の半、  
帳面出しく、  
中付と例を、  
と服は、  
こせ、  
か、  
し、  
た、  
子

つ、  
即先代、  
足、  
先、  
そ、  
の、  
外、  
く、  
と、  
を、  
即先代の格と、



ふねももうねとくもまどふねとねひも  
具方なり。実儀を故に母と逢ひ  
妻やと逢ひつりてよひ出し逢ひ  
俄の事ふくく云々用之せし縁  
きよりゆひく羽目將へ梅原長光乃  
服元二胃は深布り打ち的ら一法冊  
錦拾犯妻は羽二をきき入をひをりき  
りふふのふくくのお入をきおせ  
弁高とゆふ元佐のものしねく  
内子ねせ酒をききおせ

何の才より出しとて母と  
つらうににくとねさしとんふ不費の務  
と出く砂糖とりすのも有合さぬさのう  
わくさう出し彼乃のりそねし我木  
りふ見やとて我をねすり  
出し行るひの申二ふふと入  
く若と若さうて迎承の忠を  
りすまうしゆきつらまし子ま  
らるあまのねし一年のた  
ゆ先代をたまうつらぬ族



こゝにこそ人の家世とくもさる心身日  
つとむる國の治ふありふりぬ隔たり  
以て身名乃事成老なりとせや  
少事やかく君臣合解を成りてく  
是もその成り生きし者もわけてい初年  
下り成をとりて心ひ若風よ那  
膝ふとくきとてと音つけたり  
を人介隔もかくとせたりとく  
せも成人とをたひ隔るなりとく  
あしやうと我よりとく成人心あり

他家より養子ふ参りものいふ心解  
うとくくろれのもの遠ひ礼儀とせ  
心あり遠くあ成りてその不とく  
くめれ入意とていふ念斗ふあり  
即先代と業との後事相りて用向例  
役乃内用を次と極たりとのP後  
よりP字名也とて我ありは五次乃  
ゆくとせしとておもを自ら居りて  
とありて不たり居りて所よりあり  
心ありて居りて湯及とありて何事







陰奥よりと名くいひ能く府将軍と主按察  
使とき一秋田城の助任ありて其東奥  
と防禦すら幸しあるにぬ事にはこれハ  
此一門の後高府ありて今津より此親  
族より松平肥後守白川より此信代の子の  
家出羽山形より秋元但馬守同主との山り  
松平少将より奥州柳倉より小笠原依通より  
福島の板倉内膳正同國岩城平小安及  
對らやうりせし廿二の信代元と名えし  
其より中より今津白川より其城を楕形の

家柄と撰りしは先主也其城の  
城代と勤しもの心得肝要なり定式結託彼  
損亦無悔急を糧武念のよき未將くし欠  
一々隣國の監使と出し其不慮の侮  
と儲希りしは其具事未しとくハ  
此先代乃此定と令後し事ハ改り不及  
ハ此其を未だ其外信代信長行はる  
新切ありかしと廿二開言先中同宗に  
出入りしし一和りし事ハ同  
ハ其外しとて出火の其の信長自云殘











いかに松平同様も廣良と想願くし  
隠岐に定勝の公男、城中に定徳是  
大鏡院極也定勝ハ 権現極くは吳父  
同胞の常ゆく始て廣良以下松平の  
氏とすまじ下され是より源隆和源氏  
かく久松氏より存名一足ありと可  
心はけおと長赤一志とす年寄ころのち  
ふは遠みくは先達を隠居ともあひ出し  
以先祖の事承知久松松平の如く  
相見くはらんや若きものたはれお好し

形も無極候なり依之りしころ事なり  
と好しまじし事ふくは表向と前と  
も兼斗の妻ふりて一家丸の事乃事  
を隠めんはくてもさすりし諸家乃事  
事りお今も好し合の付お能合ある事  
りゆくはありは徳家も小系宗と  
りのと寶物のしくんは深く徳と  
り乃外出しく見ん是といふや  
秘さすも細のまのあくは書しと  
りくもいひまはしき通有れお若きもの















可なりぬいこのと後こゝろしん三下  
只平生の學問と云ふは馬建太力の業を  
飛孫と云ふはあゝん時同列中後見分  
と云ふは世付ふりり業乃若恩答低  
と云ふは心算と云ふは平生の種方業の  
託と云ふは海軍の耐用と云ふは  
と云ふは平日種方古乃業人  
と云ふは用と云ふは才と云ふは  
原と云ふは原と云ふは原と云ふは  
つらと云ふは人小務と云ふは能と云ふは

杯と和と海と云ふは容子の  
その比且と後と云ふは枝葉と云ふは  
と云ふはせし用りと云ふは子と云ふは  
と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
可と云ふは且其目成んせと云ふは  
乃と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
能と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
小学問と云ふはと云ふは其次り  
事と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは  
能と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは



事のくさ乃道致五失ひし事一出来り  
子とてしらりゆく是病今川時や  
中ものかも文及とてさしゆく武道  
終り一勝利とてさしゆく又や  
中ものかも文及とてさしゆく武道  
事一出来り  
病氣のさしゆく  
儀の行而ひ子  
若男子若し者大病とてさしゆく  
出し用是大事かく大病とてさしゆく  
又もこのゆへにさしゆく

と必死を急うり事かくしゆく  
其後同姓の内名とてさしゆく  
家中内かくしゆく  
又い書文とてさしゆく  
祭りのい風其外い事内とてさしゆく  
お又女子嫁組乃又是又家中内り  
五親まといふゆへに嫁迎のさしゆく  
まといふゆへに嫁迎のさしゆく  
おおのい嫁迎のさしゆく  
礼乃親式儀事なり礼義乃



しきりやう小松縁相懸り一版実と  
ひくう夜篇のりさひく小笠原右兵衛  
伊勢本乃の口礼儀と用ひし事さし礼  
ひ方世乃さしあの一せ一版のりさし一版  
さし身事さし事さし縁約と用ひし事  
は其日さし事あり料配の事も有し其外取  
おと事さし事さし事さし酒盃ひく  
りやねり酒盃さし事さし事さし舞ひ  
物さし礼礼さし事さし礼の事さしハ  
樂とつけさし曲禮さし礼義さし事

言し事さし貴とさ皮さし俊とさし事  
山先代さし船ゆさし相や我より事さし  
得と合意さし事さし冠也喪祭の受  
り禮義とさし事さし事さし有さし事  
と事さし事さし山先代さし道所合意さし事  
とも百石以上の事さし物さし事さし事  
何より大さし事さし事さし事さし事  
事さし二百石以上の事さし下分りさし事  
事さし事さし事さし事さし事さし事  
乃事さし事さし事さし事さし事さし事







と有りよりなり那ふ事ふつたり  
ののちくの大目付ハ格式をく申一秋ホリ  
身乃との夏と氣と身人君の定とくじ  
布ちりか身の行此平日の事と心と身  
下ハ取を去其外位子行位後人  
ホの職掌と形正有し而も目と行下し  
惣として家中の仕主大目付より取老在  
り後ハ後多とくハむく重きまきと  
横目付ハ大目付のやりハおと大目付  
役乃勤方理とつらからとらと

横より目と行と事とハ其外乃目付と  
よりハ後とりけ此の夏勤弁とあり  
三殿の目付列在の序とありと云伏藏  
下後と其の外と位目付是位目付十人  
目付是ホ乃目付在のふ行而もとりと  
目と行とせりせり中不事あり分別  
りてはりて何れもまたとて  
ハ間遠ひりり疑ひかしてハ無とくも位  
子身分のものふ行而りちりありとあり  
油りハおと事とありとありとあり











おりのゆりて親に旅者より言下後下月分より  
P出のちみし是あり派しつるさくぬる上  
一愈も二愈もさあし見ふとあく不及  
降儀とちりゆり下月分してむとあ  
ころまた晩よりころPありころ下月分  
順きのゆりて物乃奇くさの船の形  
まよともさ方よりP毎ころむとあ  
るころゆりてあくめさくころ船中くわ  
法士の法よりあつたは制限とさる極ふさ  
ころまよころゆりては法よりころも月分よりあつた

制限より月分とまよし行義と結ひ船の所く  
糸の結りよりゆりてあつたは法よりころも月分よりあつた  
義目よりゆりてあつたは法よりころも月分よりあつた  
諸士礼目よりゆりてあつたは法よりころも月分よりあつた  
指揮のあつたは法よりころも月分よりあつた  
混雑の混勿論外旅乃ころも又年若くして船中  
不業ののころもゆりてあつたは法よりころも月分よりあつた  
乃名器のあつたは法よりころも月分よりあつた  
ゆりてあつたは法よりころも月分よりあつた  
りころもあつたは法よりころも月分よりあつた



つらき危角さうふ相法とてふせぬ極り  
りまら役美のつらさくは若者の  
を死體とてしるべし極りて言ひし法美の  
そは寺院とわかく徳を焼香礼とふそ乃  
他法程とてしるべし或は願申とわかく  
と念病人死をよひしはのち擲ち切とて  
そよとの病とわかくはあまの極り  
り他死とてしるべし或は願申とわかく  
かては又紙に隠密使とて言ひし事一有  
白川とわかく見所くと夜中一切あり

女乃出入りしつらさくは極りて  
身とては元の子とては出家のや女は  
多岐階とて言ひしは月小何れとて言ひし  
病りしつらさくは身とのち七乃出入り極り  
りて言ひしは極りしつらさくは言ひしは  
りて言ひしは言ひしつらさくは言ひしは  
争の及月行夜月行夜月行の月行の  
らぬ事とて言ひしは言ひしつらさくは言ひしは  
しつらさくは言ひしつらさくは言ひしは  
其不よりしは言ひしつらさくは言ひしは







とふあし一樂しと回系乃樂うつと其具  
とふあし一令成樂うつと其具  
思ふし令成あしとむきとむき  
まのいささかちやくさ乃とまの事  
いささかちと令浪とくつと一取取  
とむきとむき乃負成とくつと  
とむきとむき乃負成とくつと  
叶い我も手公乃一りお成り小利とむき  
少く取のふ入の事とむき乃一取取の事  
りくつと一取取の事とむきとむき

助りもくもあふしと志いかにも其人  
柄くつと一けり負成とむきとむき  
只も一取取とくつと一取取とむき  
是も一取取とくつと一取取とむき  
乃とくつと一取取とくつと一取取とむき  
事成りもくもあふしと志いかにも其人  
あしとむきとむき乃一取取とくつと一取取とむき  
あしとむきとむき乃一取取とくつと一取取とむき  
あしとむきとむき乃一取取とくつと一取取とむき  
あしとむきとむき乃一取取とくつと一取取とむき



一 臣の者事しく思ひて

一 子に在り傳教を并治しその心得一なり  
うり年々傳役ハ修し役多成勤功成積統  
より万事より事別より年考と竹々  
ありしものより成補佐以て事々しく  
を事々職分より和漢より以補佐の修し  
修し人ハ誰れ別ら想風たり子其家のお智  
と名と一人君の急傷しこれいふ成以男  
以下直と他ハ事々より修しは各分を以て  
一なるは事々しく一人君の急し

一 上よりゆくハお時をまじり後を及  
こ側役何のもの心流去事々ハ  
更を事々同成格出しは修しお事々  
一よりハ子信乃内ハお事々同ハ事々の  
つより事々ハ修しは修しは修しは修し  
此若くハ氣成りお修しは修しは修し  
不しハ修しは修しは修しは修しは修し  
修しハ氣乃つよりハ修しは修しは修し  
修しハ修しは修しは修しは修しは修し  
修しハ修しは修しは修しは修しは修し  
修しハ修しは修しは修しは修しは修し



書成續學問致して見せしむる事  
ありしにPのわくをさしひ能くし事  
と致しPのつらさるるPの仁事  
の厚く人を及ぶ馬鞍のまじりも其心  
の行角を肝要のりり例に附括し  
しひと事し事し我修し事し  
ちやうし事し事し人成人し  
我ちつりのりPの附合り人と  
思し事し事し事し事し事し  
幼年延危危の用し學問力と入敬のすま

凝し者情忠信の道理をさし事し  
し事し事し事し事し事し事し  
行跡のりり事し事し事し事し  
ゆきし我ち事し事し事し事し  
泉来ありのり事し事し事し事し  
いさめし事し事し事し事し事し  
し事し事し事し事し事し事し  
著し事し事し事し事し事し事し  
し事し事し事し事し事し事し  
し事し事し事し事し事し事し



此家老殿の跡よりさうあつてくみ君乃  
此と云ふとさういふ外跡流るゝ和漢古今の  
こゝろいづくもさういふは吳羽と陳義  
ちまの殿有るゝさう我影くゝ大納言中  
納言と云ふ官孫と納言の位とて世及とさう  
後ゆゝとさういふと後世とさういふは戸位  
り成りぬ孫乃と云ふとさう有るは是れは  
すたつち役のもの等用より事記くゝいふ  
しねまの先と云ふとさういふは中納言のまゝ  
きと云ふとさういふは成未成の家と云ふとさういふ

おのゝぬやふすゝと云ふは二番と云ふれはす  
ゝふ芥と云ふはさういふと云ふはさういふ人  
あつてもさういふはさういふはさういふは  
海よりさういふはさういふはさういふは  
成人と云ふはさういふはさういふはさういふ人  
おのゝぬやふすゝと云ふは二番と云ふれはす  
奥遠入と云ふはさういふはさういふはさういふは  
身持と云ふはさういふはさういふはさういふは  
さういふはさういふはさういふはさういふは  
さういふはさういふはさういふはさういふは  
さういふはさういふはさういふはさういふは











Pり又を離縁ホ乃後再縁りる内徳と  
寵をば後一の女に格式と行をくつらひ  
るも貞向の糸締りより恩補支給りPの  
妻よりPのみの大老武の公家の娘とくそ  
ころしよりくまに片有も急な心ありたら  
局貞家をあり附添くつらやをひきつら  
事無しの妻よりPのみのくまたらあんの  
糸もねく具身乃のさふふゆうせ自由と  
るめくねる人ふね恩の事とさあめと  
つつけよりPの事と今の女ひよひ糸の

事より貞家老及び道が流しにあらん  
勤しみのことあつとPの糸のくま  
つらく隔んをくつらつと恩補と  
Pの事乃後よりあつとあつとあつと  
吾隔を一和とくつと糸ふPのくま  
ひ下のねくふ成くは後んお碑に糸く  
物事よりくつとあつとあつとあつと  
色人より恩の糸とくつとあつと色人  
乃んを然とくつとあつとあつとあつと  
ありをさくつとあつとあつとあつと



ほのり家風とてしつゝ一府ふつとて人の  
ちかぬを解らうとて少くも教へておけり  
日比乃悪事事一ちと教へておけりとの下  
のとのと刑罷らうとてしつゝ子孫の呉んと  
り主人と能くしつゝ事たつてまきりて  
悪事又かむとてしつゝ人々能くしつゝ  
中長つらとてそのなきとてしつゝ  
周君凶主りはつゝ長は御子あは合那ら  
るゝとてまわく幼年とてしつゝの育く  
肝悪くく幼年のつらつよとて酒とてしつゝ

とてとて兵服とてしつゝとてとて  
との教者とてしつゝとてとて  
とのつゝとてしつゝとてとて  
自身とてしつゝとてとて  
りつゝとてしつゝとてとて  
よつゝとてしつゝとてとて  
の諸侯の家とてしつゝとてとて  
人君乃せざる亦とてしつゝとてとて  
とてとてしつゝとてとてとて  
即八月見奉るの口切年とてしつゝとて



くけ酒あや償しは中ららるるの月  
とん花とふらひりまの閑静とらら  
ゆしとらららとららと紙しんをやら  
ましとらら月見も花見とらら  
夜のららら酒と看らららららら  
ららら月ハ修らららららら  
りららららら散ららららら  
元後らららら茶の口切らららら  
らららららららららららら  
初音今年の茶刈りまらららら

あららら料理やらららら茶を販し  
まのとゆらあをらららら役乃らら  
らららら数方らららららら  
自分らららら茶と酒とせ  
ららららら茶と酒とせ  
く日比出余ららららら  
茶と酒とせららら酒とせ  
少ゆらららららららら  
らららららら我よりらら  
とらららら年中行交ららら  
とららららららららら







多うは引物と申すは際成の攻りてやう  
方々をゆく物成りゆく指揮と申すは  
このも主將と申すは其の利害と不弁  
はつては多うと申すは天官同  
人馬りと申すは一人和と申すは  
人君乃徳令侮と申すは人との  
のいふ事と申すは是れは海と申す  
は未孫と申すは人乃徳多と申すは  
多く宛行と申すは人成り人乃  
勸り申すは勢め礼と申すは表向

海と申すはつと申すは其の  
はつと申すは服と申すは人の  
有と申すは命と申すは取  
と申すはしと申すは能仁篤  
中と申すは依と申すは知年  
廣と申すは希と申すはか  
海と申すはよと申すはさ  
成知年と申すは書を讀年と申すは  
もよと申すは古今乃例と申すは  
と申すは大名の字問と申すは



由を及に書む能く思得本代何ん  
と教ふりあくよきこと一字義道  
理乃備教と聞孔子の道と得く  
は又よお我教の事代と知らぬ  
隣乃多と知く我教の事と知らぬ  
志をよしじ國乃書む誰とんぬ  
日奉祀り付まると信りてよ  
乃及中下知らぬ事多くよあや  
神皇正統記天子乃歷代と見  
し書む

あをよと世継ぎの  
赤太年記ありて通俗との  
事係りて保元平治物語と見  
れ御師の天下治めりて  
八代天下りて槍とりて  
あつて室所ありて  
りてのあをよと文と  
る國の太暦の是を  
さして伝長の天下と  
天下と一同を



権現様聖若房より水ゆく山合我乃事  
是ハ得ふ亦之知りしきりしは是と知る  
三河流風云流りしよよのり得とく  
儀先小家忠日記松原死事迎く水戸  
りく出来たり東遷は是業りくあり  
本村政りしより編りて武徳傳年集成  
武徳安氏記孫我実録ありて見ゆり  
ハ就中姉川味方ヶ原長篠七久も  
ハ山名我山傳代流の忠告乃御本歌味  
方乃五合利害とふり例向乃もみの

得義ししと心と願く東葉弱かり身と  
りやしきとまじりし人となり其下乃  
と分りし世に合せ相怒の技あり  
はくしと一向不忠ありてはよおふ  
多し相見しと若かりしと知りし顔  
くも赤しと相見しとありしとあり  
しとありしと人のおぼしきとありしと  
遠くありしとありしと替めしとあり  
く関く病ありしとありしとありし  
くありしとありしとありしとありし



謀は言し中人用指しその名をたふさく  
降くといふは河をたふさくしりて成さく  
その日とわたりし鳥と聞是將奉に降と  
貴しと云ふは只つてし下乃奉とち切ふ  
手好成身ふ者なりと先祖のいさとし  
小よつて世敵の権能あり人君を治  
くことまじし御く冥からん徳も有  
先徳の忘りぬるは名を治すありし  
うりしと云ふは御しありてまこと今房  
しりて其言はしりてり別原よりあるは

初年乃内りて後のもよみくはひ  
せりてまじし改を農と奉りて周乃  
井田貢法奉給り江仁延奉貞親の格式  
氏那者乃奉人治りて是とまじし氏  
名しりて時を治し盗人礼をたふさく  
和漢の定例ありてまじしと云ふは  
うりてまじしや周よりしりて治り  
奉りて治りて治りて治りて治り  
しりて治りて治りて治りて治り  
然る者なりと云ふは奉りて治りて治り



獲物有世こりり事しく此らつおくま  
儉廻とのけりい是我術乃是あふし  
那うそ事とも農業乃妨お成化物  
とりいこぬやふさくさ事いぬ揚先  
あく農人乃あれと智めぬ封内乃遠近  
山の高他川の浅深何ふつけ歌をいしと  
百身妻浦才ふ永ぬ神奈事うらう乃事  
成る乃控威りやうせさ先例とやうく  
くい未乃事高別命く作く虫能  
いぬ入返乃町きいことくことんせさぬ

りつましく事しくいりぬる細かの時を役  
乃そのいんち事いぬ細かぬらうらう  
事さそ世いんち事いぬのあく例とやう  
くことくいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
酒とくいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
細かぬらうらうの甘き統候乃附酒と  
ういぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
飲らう者いぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
く能事いぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
りぬぬ及依いぬいぬいぬいぬいぬ



酒と飲も初年小改指し内あつて  
禁酒を以て凡事も是を初年乃例向  
りていひる人酒とをいひて飲つて例向の  
そのいふが下は子孫に傳へる酒の  
相もよあが成るにせむ後つてぬ  
そのいふてあつて忠臣のちかきとせ  
きと人まけし酒乃相もよいふを  
年公の心は酒のあり酒と和とを  
とてあつて酒の酒と和とを  
酒と和とを

用くしる教乃よしとあつて酒と  
くんと九と一と事成れ九と一と  
初子と一とつと一と事成れ九と一と  
初く世辭と一とつと一と事成れ九と一と  
初く親と一とつと一と事成れ九と一と  
初く行跡と一とつと一と事成れ九と一と  
初く今風の利欲と一とつと一と事成れ九と一と  
初く人成と一とつと一と事成れ九と一と  
初く酒と一とつと一と事成れ九と一と



















射の砂してはあつぬ事と云ふはさうも役例  
勤乃の打より平生と願ふ事と云ふは  
射の事一武川のきれ業ふと云ふはひつと  
小的と射の事と云ふはひつと云ふ  
井粒和と云ふは志度りうと通と云ふは  
るひつと云ふは矢と射と云ふはさうの  
分と云ふは去年より今年は是れ分と云ふ  
違せりうと云ふ事と云ふはさうと云ふは  
書に射字の宗ひ書物何と云ふは名目と  
ひ通と云ふは唐字と云ふはさうと云ふは

く再板と云ふは安く成し射例乃道記と  
何と云ふは業のよりけし是程の書物と云  
し中程先改たら安富字八海野に凡事  
ありは戸と云ふは乃大射と云ふはさう  
しは和文おと云ふは業のよまと云ふはよ  
ひつと云ふはさうと云ふは書物と云ふは  
少めと云ふは存ありは例よりと云ふは  
て見と云ふはさうと云ふはさうと云ふは  
かよと云ふは別と云ふは武志乃長たつあり  
代にらより故実と云ふはさうと云ふは故実



者を直つて尋ねしひりまきく或は  
り九のpの道々これ其位と好ま  
むと云ふ事と云ふ事多くと申す  
拒絶する事と云ふ事凡そと  
pと云ふ事と云ふ事天地乃同と云ふ人  
乃から成りしに季の運行と云ふ事  
と云ふ事と云ふ事水と云ふ事と云ふ事  
静なりと云ふ事はこれと云ふ事と云ふ事  
かすいことと云ふ事と云ふ事私乃と云ふ事  
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

あつたことと云ふ事と云ふ事と云ふ事

白川家政録上巻 年



白河家改録中之卷

一 郡奉行寺社奉行勘定奉行此事奉行  
道中奉行且役乃その心此と令先郡  
奉行の先をくわくしたる國本備とく  
見合矣了く我亦存ありふ遠より  
以てまて一かたの先代より能く定むる事  
多かる御制度乃ありじまも之も郡代  
と論じその人のよきと修せ後より  
只事小をこころの五擱き郡村乃五



志願の事と合くれば後らふは其の  
高府お前さまのまを役後列る我々の  
存案と待たうとも好むと云振同ん位を  
はらひ以後我々の目も  
對しな事とややくは亦一而然とらり  
何れもその事とわらうと極威と  
却しらく免あつたやと上させぬや  
らうあつた後玉及飛使に入つ成し百  
とを我子乃やくもしめし百然ハ飛  
更と親らうとあらうとさうと  
あ

まをその任くこととんは木の更ハ和漢  
のりた昔よりりや事とくは後も右兵  
とくことと通くこととぬハ例乃実  
我々も存する飛使と実あつた百然り実  
形も忠表向の附合のやふ成く飛兵飛  
使をを役とん位位飛らうと村乃事  
子代とおまうせ大庄屋の事行とさし  
自分くさうと飛らのことと実と  
さうと所用と事新とと具者とも  
中とさうははく九捌具牙と実乃観



察とあ用假示と示とより書留有と  
張句乃上の先格と云く附とより人  
了年と授根天地の乳此乃分別り  
己と云くは青表紙捌と致事と云く  
昔と云く乃制度考と云く子あれと  
あしと云く親のあすと云く孝  
子順孫と云く是と云く依と云く律の令の  
りと云くハと云くと云くハと云く只  
あふ下乃利害換着とのと云く  
事と云くハと云くハと云くハと云く我子の

病と苦と云くは乳格と氣をい  
茶と云くは食物と云くは  
と云くは天を云くは  
乃名と云くは油と云くは  
父母と云くは徳と云くは  
治め圃と云くは  
銭と云くは  
と云くは利と云くは  
と云くは利と云くは



者換乃根くえくくと上乃利とて家  
り心とりの言の弘仁貞親乃格式と  
そんまらち又よみ相又考一の能百姓人  
と多のむい耕化の長文を打世せその身を  
もとあうらわさしあひひくさとの多  
れし一隠無又より傳く取の何あとなよ  
かひもも百姓乃多あく一人くあうせく  
自身田細しとあうらわさし相くあう事  
天命とあうぬわくあのみとく田細し  
くあわく願を一貫と出さあものと作らまは

況き自身界れあくは乃南のぬ所と下  
人あさせるかむささし人あしと界成  
り一纏と素席と織さうくあ道化  
こく女居りりよのと搦さうさの業を  
あさりりせ其あはらうんくくあのを  
あゆさるあな味あんとひさ式たあは  
外海福理わくあうらわさしあとの他く  
こく月日とあうらわさしあの外あう  
こくあ搦さうらわさしあの様と織  
り女居りりあうらわさしあ百姓乃







以緒然とてせき依此具何とてふか  
身は正しく執成とてPを平一多りるる  
とありらむ例の親孝の令ありはとて  
乃ん法を能を行ひしるは父母を  
とふは能下乃てと君あり其力同かりPを  
と分別しつて字の然と昨年号とておるは  
く孝向ありてふくん安りとて一茶とて  
世合事とてしとありて一甘んをて死  
下乃事とて字の平なる事とてく亦力同を  
乃勤才は皆恩とて知をよ力同を勤

のこつとてPの備法は乃て又その先  
代は法はとてあて合はれし一指とて  
所々ありてあての持事のみを法は  
乃而るぬりのものなり是と町奉行乃實  
是町年事ありとの五掬とてあてのり  
止りPのやとて成るもの親切とて  
屋敷んとてあてのやのぬり  
なり  
公是様よりとて其能あり其能  
とておるは一通式に町奉行乃門制札  
場は法出し人見とてくはなり



はた乃事やしく進交や〜pさる天下  
乃法に二日法を〜からた〜  
中〜〜あや〜い時々と商賣  
中〜〜あや〜い時々と商賣  
何と流せ乃音〜の多〜  
春向乃法度斗あ〜止〜  
〜是ハ町内母〜  
〜司〜  
〜者〜  
〜刑罰〜

志孝の〜町内母〜  
あ〜の有ハ是ハ所母〜  
〜時妻宿〜  
〜木〜  
〜出〜  
〜止〜  
〜候町〜  
〜所保〜







とて女と同一百餘町人の子  
とて女と同一百餘町人の子  
隔を〜のゆ〜時乃不奪り〜  
る〜成下人〜形り〜る〜る〜る〜  
士乃石巻のゆ〜の遠ひ〜上下と  
く〜く〜働〜又〜中〜とせよ〜  
扱ひ〜ゆ〜ゆ〜天令おら〜  
と〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜  
奈修也〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
り〜上〜風〜と〜〜町年寄町役人〜

後風俗乃質素不丹成〜  
事〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
せ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
一旦ハ事〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
年寄名を家持三所〜ゆ〜ゆ〜  
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
振〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜



移りては是亦人喜みくはき人かこし  
かこし二人かこしあかひらひ事とんお  
うあかこし何事をかひと極くこらこら  
かこし思つて寺社を以て封内寺社の  
事ふくくくくくくくくくくくくく  
まの寺格張とくくくくくくくくくく  
仰承る下地除地は景衣地も下地は何玉の  
位とくくくくくくくくくくくくく  
く岡山を修らくくくくくくくくく  
神社は仍乃社とくくくくくくくくく

能事社目乃格とくくくくくくくく  
く具上中くく支死くく公長所伝乃事  
公の人の中くく所伝同安く書裁くく  
くくくくくくくくくくくくくく  
成るくく中一を以て形位と名ひ捌乃  
始と成る寺院は奈奈事とくくくく  
具と欲くくく檀衆とくくくく  
建とくくくくくくくくくくくく  
くあゆ佛と愛くくくくくくくく



料費共々さすおののこゝに葬埋乃  
用急身りの事々々いん装束くくく  
不及事々々いむくよりい骨人徳園をた  
多の云着乃事々々い封内乃寺院外  
と節々小位ちり成しくく八年若り事  
とから小宗りりさい志字ハ松別城下  
とくハからく事々々事廿月と及老由  
安行ふ所を制乃外ふいんをりくあ  
くい良節あくく了く先印代四攝  
廿一 事々々くハ是ハ我ホり代より

胎くお節々事々い領事々くく破く  
望きりいん及とやり事々いお又徳園と  
そり新橋りP及事々やいりい新橋  
あく病氣垂りいりP解い桃廻  
いん出家山伏乃おいりり定  
く封内りり事々いお門いりり事々P  
りりいん病ありりりりりりりりりり  
りりり新橋りP事々目今古代いりり  
丹那中長橋家在田白川本乃神池



官乃司員不ぬる出泉山依乃故例  
若くは乃のり乃のこまぬく雲霞  
五く道理のつて音のりぬく弘法  
具舟智徹の心そののつてしはを  
故例ぬるの律乃及く世の具例  
乃天子乃のり乃のり乃のり乃のり  
のわらり乃のり乃のり乃のり乃のり  
くそ外雨のり乃のり乃のり乃のり  
皆神祇のり乃のり乃のり乃のり  
乃のり乃のり乃のり乃のり乃のり

中く天災地妖式の疫病乃のり乃のり  
法乃のり乃のり乃のり乃のり乃のり  
道と外乃のり乃のり乃のり乃のり  
更り戒まらぬく天地乃のり乃のり  
佛法ぬく祈禱乃のり乃のり乃のり  
考一是あぬ乃のり乃のり乃のり乃のり  
皆作人とく乃のり乃のり乃のり乃のり  
少ひ乃のり乃のり乃のり乃のり乃のり  
貴命乃のり乃のり乃のり乃のり乃のり



とらふくはそよのさくふた名の令り業  
師や外乃吳名や行く業あてつあよ  
はくくく邪逆とぬさささささささ  
あひの法ありと出家山伏乃はるくま  
あくをきき皆度々との乃跡ありさ  
あひ乃りくは是りあさく邪代りあてま  
乃子何りくくり傳りは是く疑家乃何  
不所疑くは傳一陰陽持正のくあて世よ  
流布りくくくあひ者探のよあさ  
合新九くくくくくくくくくくく

皆急あふ人のふとまうくは疑術くは是  
おろおれ下あくくくくくくくくく  
一所く一く友誼とさくは年あさ子  
速ゆきくくくくくくくくくくく  
必吳吳ゆきハ傍くくくくおきハ  
吳吳を就くト筮とりあよと位さく  
依者君子乃中くくくく遍くく  
あさ考り母義とくくく傳り吳吳  
何くあ身あくはさくくく鼎と御  
行いとあくくくくくくくくく



曾留りし事乃走ると思義く  
あまもんやあまた先代乃る後後之見  
ふりしと改く事聞か上中下と成  
お葬礼乃式をいお成るお命をいお  
し天子よりとい事い事いりり  
抱く五部いりり乃る云云乃る  
用い費い事い親の葬式と子りり  
い棺擲乃員とけい成しけ厚く  
五斗い信お布施とありり是と死  
後乃者い人はい皆名実乃事いり親

切乃篤乃より出さる事い死後乃者  
喪とわつくりあしり只おい所り  
ありの葬式を分限りりり墳墓  
と築いりり後世り所いりり  
下等りり棺乃申る衣類  
乃外紋金と名り埋棄法用りり合し  
出衆と記をいりり費いりり  
さしお佛寺の修師信託の田紙氏乃  
法大あり事いり又古及所のりり  
天下執権の附後い停止せりり



宗廟の由相止めは國去り貴賤の入りくた  
りて死するものありて六條のたてしと  
理のありきりて事勿新ありて事  
思ひぬふ武人死するを故と刺服と何  
らため経文と書其外矣旅ありてとら  
奇しくありて事おせむ世々ありて  
りてやみんは其日午故実と死生い其國  
ありて乃ありてとありて事誰を  
以て親を事子とありて事ありて  
出家とありて供養とありて接ありて

らまは死するものありて成りて事誰ありと  
ありてありて事弱とありて例乃出家  
かたしありて今我とありて事  
實ありてありて事や又大葬とありて  
事大古天子より禁制のありて事  
危角徳とありて事と止り先代ありて  
何乃ありて事今又停止ありて事  
ありて事改及りありて事ありて  
ありて事ありて事ありて事ありて  
ありて事ありて事ありて事ありて



とせしむくも出家のあはれかひ火葬り  
しふかき権りあつめ埋るる場りくは  
出家乃孫もふよくいひあはれも  
たつていふまうらうしうらね事くも  
柄のりや加はるゆく致す扱ひも  
下ふ白川をいふ地原く古院の境内も  
るしうらうらうらも白川こい人乃  
物好ゆく遠きく火葬とをくも  
及死とすやめ納法もすまふも  
くも見よ親の遺骸とすのりり火と

焼くゆか事一人焼くをありくも  
煙天り傳是又天と云く法澤那  
事くゆく中へはめ下外音も  
亦身と云死くをいふりや又  
よりく及死と考見てすい  
物乃死ふくく一せよふひ  
ありくは木乃度又も民間町  
り成病とすゆと俄も法を  
ふあふし又正教の害も成  
法度いふくあきりよく法度











周禮の注の出づるは是の如くは継備  
乃教を以て中級に成るべくはあらずと  
倫約の如きは世乃民を以てするなり  
其情を以て入るべきはあらずは孔子乃  
教を以て吾不欲氏之為也の如く勸を以て  
其の人を以て教を以てするなりは孔子  
やとくは上乃其を以てするなりは孔子  
我より身分を著修するなりは孔子は孔子  
吾を以てするなりは孔子は孔子は孔子  
あらずは孔子は孔子は孔子は孔子は

具亦とては是の如くは孔子は孔子は孔子  
然し中出の事と止めざるは我強り強ひ  
下を以て強ひんとすは孔子は孔子は孔子  
と然しとては孔子は孔子は孔子は孔子  
少くは孔子は孔子は孔子は孔子は孔子  
制し制し制し制し制し制し制し制し制し  
其の如くは孔子は孔子は孔子は孔子は孔子  
しとては孔子は孔子は孔子は孔子は孔子  
孔子は孔子は孔子は孔子は孔子は孔子  
乃其の如くは孔子は孔子は孔子は孔子は孔子



自カ小丸其のあひふ可良例の元勳定  
まひお後やけい受有くは扱大取等  
用りく身おひまのくくは持きりく  
つひきま交うくくくくく身く  
くけて世治とくくくくくくくく  
押斗らました根のくくくくくく  
お後くくくくくくくくくくく  
よ一の存公りくくくくくくく  
おきりくくくくくくくくくく  
ま乃町くくくくくくくくくく

は終極に格合とくくくくくく  
尚財くま向ぬくくくくくく  
奉行乃勤城郭乃御用中くくく  
右入まくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
後中下りくくくくくくくく  
と先くくくくくくくくくく  
おとえ下りくくくくくくく  
上乃おくくくくくくくく  
職人とくくくくくくくく







屋乃我我を陣に及りてふくおくと  
氣とくをり破換未せえくくおと  
ふと有る中一丁の旗陽心名目おる  
心先代乃語とお中お勅し事く二改く可  
尸分乃節毎く我おり中お道中をひく  
中おのふ人入り中おさかくの同位を陣  
具乃年もく中旅人と行りくひくお  
くく節令有しるのく旗相くくくと  
下官一といくく二のく下官一り  
りく先代をさくくおのりく具所の

既を彼人乃りくくくくくく  
外家乃相成り馬方人官おおとて律  
義く旅人と大車く仕く旅及申をひく  
り中官一是もくくくくくく  
心おせり中車一り旗未おりくせり中  
分お者お甘くく旅人と大車くくけよと  
り中一なりくと一通くくくくく  
冊下とお考実とお用の旅をひく  
実後と出くくくくくく也行南  
り中武附を思ひく他玉乃くくあり







付しよあ申一云字ふ毎内わくハ役義乃  
去云冠まよりふハ武役乃事とハハ付  
付と年始用とてあて自身世役とハ  
派冊衣とありハ是外乃役と遠ハ  
武役ハよりハ戦功とて相見と勸  
陣場中行ハ淡陳乃利害換立敵地  
ハ使と勸味とハ乃陳不見分と事ハ  
首実抜ハ他法有途乃使武陳ハ之ハ  
ホハ働武ハ後世乃能知ハ成ハ役ハ之  
是事ハ毎内よりハ士ハ割後ハ之ハ

あてく派は不と相考ふ以右戦乃事と思  
堆とハ永隊天正乃以甲信冬遠の由  
の五をくハ是ハ一あり武ハ之ハハ  
と身ハ引交つ子ハ之ハと激ハ下ハ  
廻とハ之ハ骨ハ之ハとハハハ下  
付身とハ之ハハ三振ハ之ハハハハ  
乃ハ之ハハ振目ハ之ハハハハハハ  
先馬ハ之ハ達とハ之ハハハハハハ  
けハ之ハ之ハハハハハハハハハハ  
戦場とハ之ハ之ハハハハハハハハ











戦場少て乃勸りて遠き事なれし故  
主はく是より侍我れ故高き事乃  
事多き難後ゆく歎ひしとて  
仕とてく事とて戦場とてなりし  
乃利害とてく後とてなりし首主なり  
事とて

一  
物頭旗を行と筆流しと持りて折首  
先子武將長柄を引木是又一ふり  
旗を引く能中を役とて旗三軍乃  
を定めて故実有る天子日月乃旗

に於り用る事乃旗乃侍有る是ホも古  
実去の事茶の度より旗を引と勸り  
んふゆく事事とて用茶とて旗  
乃事折あり是ホも一子ふり方同なり  
と云悔急持ありし押とて旗乃形  
格列りし事乃旗旗を引乃折  
り折り事とて用事とて旗  
折ありとて旗旗を引乃旗  
事とて旗旗の物ありとて旗  
乃事ありとて旗旗の長たり



とものこく去防と引とて等とてとま魂と  
P. 字と何とくもむら南白くあまてい下  
旗を引とくと合長とてとまとくあひ  
あまの舟位と竹とて五投りのこくとり  
風吹乃耐多と籠も乃ととまぬ厚い  
あまつとく飛降とてとまの持片改打  
筒改とてP. ま屋とて卒射の合は先代  
言後後とて四用亦乃書而か合後と  
しつとてあま及とてつとてとま知乃  
事とてく只平日乃くは乃く大切とて與力回

舟り射とせぬと鉄砲とらとせぬと願  
此神ととあく実儀と統とたさとてさり  
くは此是一通くと海くははくくくめせ  
射とて位とくくあま乃用とてくく  
は仲らり後月と遠見分とてくく是合  
ホあくくくま平の是とて此是通とて見  
分とてくくまはつとてくくは事とてくく後  
既とて出候とてくく実とてくくさくく  
いまのくは先代乃く此とてくく水とて銀とて  
くくく高竹世話とてくくはくは後とて油



此より成し明日とて戦場におもひ可  
し事肝要とて今日迄書不致面ゆ  
目人とし乃を扱ふお加ゆ式ハ捕まの籠  
と乃辱まの鹽城味大舟ちとるや一俵  
固を以て忠告とて知あ能乃以ぬ一乃并  
とやとけとてけとあて有しん改く  
おのひ舟い方の改乃と能能改まぬ  
何とと勤らあてハ世改乃中念と行て今  
と於より思ひ出れとあ能ぬ一可  
能下乃とあてはうとてとせやとら四

能改まぬとて乃時歴と改まぬと  
と行なれりゆとての平自ら大車とて  
おのひ勤者乃と大子山門書示は後  
また是又をて事とてを普改乃指揮  
能ぬと改事とて後先格保而し和り  
此あて改分お勤りぬとてぬとて  
此も何と改とて乃重く書改お改乃氣  
そ入るも天下乃大子山門と改ありと  
と改行とて改代とてと改金とて改来と  
乃と改とて改とてと改とて改とて改と



勤者以初其非者月日後者年者昔木の  
不念のこしてはる人のふ細法と成しおま  
乃身とてして人乃ふ細法とてしてやみく者  
長ち乃乃道とてして甘とてして依とてして入肝要の  
公義の心役人と對して應付はるしては  
月日の中人月日中一のりしてはしおとて  
心ありて抱るふ無と云無とてふふ公後  
乃もよりけりおとておとてはる肝要と  
は儀也乃乃初位と案とては用とて入肝要に  
何とてして公義の心乃つとてして勤はけり

成とて又おとて知るは後月日中一人月日  
とい方のおとて乃もふけり用とてしては  
振りてしてはるしては初位の第一の勤は  
年者さ中後一和してはと云隔とて水と  
身とてのこしてはるしては初位の第一の勤は  
三とてとてしてはるしては初位の第一の勤は  
合とて勤りてはるしては初位の第一の勤は  
おとて一とてはるしては初位の第一の勤は  
一とて一とてはるしては初位の第一の勤は  
一とて一とてはるしては初位の第一の勤は



物取の合具は、い物取乃中初之方く  
勤てい面白そらん、若こまりと勤る肝  
要くい危角上下一様、こころ母も心門  
乃く、めこあめあめこり、不とありく海  
局くいおま、こ是夜の内より、不役人作  
のまの、五三を付、味世不仲同、後取  
と取く、こころ味、私と、好ま、五三  
不、の、ろく、こ、セハ人と、五三、府取、是  
地合、先、言、ハ、彼、紐、く、出、し、の、付  
い、度、ハ、世、乃、紐、く、出、こ、母、ハ、外、少、実、後

お所ぬあ、こ、五、死、合、と、こ、ま、も、有、こ、  
一通、こ、五、余、後、お、ま、こ、こ、是、私、と、  
こ、こ、こ、の、と、ん、こ、こ、ハ、行、紐、く、ハ、後、紐、  
ハ、各、別、の、言、事、こ、こ、ハ、言、こ、ハ、何、同、  
紐、く、五、三、こ、も、御、取、の、加、辱、こ、ハ、あ、成、  
よ、の、紐、ハ、五、三、こ、上、乃、用、こ、こ、五、能、  
人、と、五、三、こ、ハ、中、乃、筋、こ、も、お、成、人、と、五  
ま、こ、知、こ、も、こ、お、ま、こ、事、ハ、有、こ、こ、  
お、つ、こ、ハ、を、身、こ、め、り、よ、あ、こ、事、ハ、世、こ、  
り、成、こ、こ、ハ、成、こ、成、こ、用、こ、紐、下、乃







との多き府の普木は法を以てお守りせしむ  
まじくは公義の先子普木は始其外は  
後を曰く其の普木とて入りおひれのおまじ  
とててての對の徳と臨り候節とてけりて  
お勤いへ乃くあてて六徳大名始旗を懸出仕  
りてゆくは大なる事なり是れ乃普木の  
格に仰りて事とて徳礼者乃多く候と出る日  
おそのの徳を清つて自ら遠くゆく可なり  
おひれ候りて平日乃くゆく引捨ててあし  
諸礼士大いし進出乃けり成らばおひれ普木

一 桐葉のうんきん乃おき組の者となりてせしむ  
まひては誰んは是又おひれは幕とありて  
おまじと上と高き乃おきは幕とてけりゆく  
お勤ちあしは徳不徳者なりも候へば節の幕  
と年中けりてけりててててててておひれ  
幕とけりては事候節式は道中斗乃普木  
ゆき有りては平日うらうては又たててて  
と候りてせしむは普木の年始斗とては高き  
とけりてててててててててててててお勤  
候りててててててててててててててて  
戦場を











長及是乃扱ひつり合とあつてはつらひ  
訓さう時をよもつさうは相と習ひて  
是もと心先代と後孫と用茶也定書とを  
ゆく改中程のより無くとさうと  
さうとあつて柄ハ籠らう鉄砲乃海くはさ  
まては是乃御書下りて武者御と好り  
歌なりとく武者の位とあつてお交陰冊  
と好り扱と入るゝの御をひ乃此程  
と遊し中知同く乃利事歌とさう  
海くさうと武者御の時兵を月竹と遊

し月明の陰と憂く憂るの中しお憂る  
化中く云強と述とくさう平日乃人け  
細下乃そののし和やとあつて乃好り  
命とあけさうとさうとせきとあつて  
あつてさうとあつてさうとあつて用茶也  
書竹乃あつてさうとさうとさうと後とあり

一



白川家改縁中の巻

白川家改縁下之巻

一 中次供願迄改縁者組武志奉行中庭以下  
 并將ともいふこと勤くおまるといふもあて起て  
 惣論迄を可多徳中次中い外やくは中次  
 役中中次相長柄奉行未うらり通り  
 廣間一宿表向中く乃改九一人品お徳不  
 云してハ海より中多是泉光寺改美者者  
 乃將あり組屋修くく若少利とのり  
 勤く中中ハ和あり有く相改年陪ありとのり  
 同く根小打ありく年分たりとのり不陪ハ右



子とありしは業の後学として一表向乃  
中一及ありては極のれは所を公として家  
未後者お慰しゆく礼をと厚くしては是  
とて治平の勤見別青表紙として階を初  
りてゆきては玄園乃りてありては内かく二所  
而之の所乃るは牛一とては内かく二所  
大清ありては書とて勤りてありては書と  
也定書と勤りてありては書と乃りては書と  
罪をせしめて用人と考者書とて成りてありて  
位多ふと有りて未何役とて勤りては書と

ありては勤りては書とて勤りては書と  
とたしありては馬と書一冊出給りては書と  
乃何書物ありて見ゆ事ハ一とては書と  
士勵合式に就給りては書と  
りては書とて勤りては書と  
追及しありては書とて勤りては書と  
何とては書と実合りては書と  
那しありては書と俤と代と待りては書と  
く致しありては書とて勤りては書と  
書とありては書とて勤りては書と







百具身を父祖乃筋し役多と勤めん事  
とんけ筋の中し學問の中せ良き事なりと  
形をよと志おしく是とつらゆんといふ七八  
外乃夏おけりや武術とやとてしとてまか  
中書物と見えんやんけ筋かこく書物乃  
んかまおのりまのりかこく我木松友  
と結せゆとて希く見是と主朝夕合事  
りいよと候し書成候事いふかこく結し一を  
よきとあくハ茶好しといふは結はひいそ  
方ともあハ役多とも勤しハお應し何役も

勤りハ役多ゆりやとて才公とて一事を  
りいありとくたしハ業成候とてしゆり  
中可と云ゆとて役多と勤り筋けハあお成  
一正乃たしあともうりあてハ勿傷事組と何  
年々好ま役多なり好人と押のけこし我  
かふきり我言他とてしハあハあ  
りいんて方とて相者附合むらま  
お良出合とて身とそ有事と筋し  
りりそあこも抱具とてハ事ハあ  
し并ら馬と中しり馬とそ有者と業おひ



下の毎々遠方へ寄出しく何里ゆく何里  
居りゆくその所より以て兼乃具合馬乃具合  
とていふありてその所より段々成くと  
先をその馬術とて馬術とていふ所  
を成りゆく所とていふ所より用事  
へ中よりありて陰徳とていふ所より  
細及とていふ所より兼乃具合役  
とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
乃成りて兼乃具合役とていふ所より  
用とていふ所より兼乃具合役とていふ所より

七言と名なりとの足と体めら能とつと名  
うら形とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
附の備とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
船とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
此先とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
然とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
りけりていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
尚何とていふ所より兼乃具合役とていふ所より  
菴お乃とていふ所より兼乃具合役とていふ所より



人臣遠くくひらやんく名を射し押さ務  
ふの所々合於罪乃を打たる市々く何  
れも所々りひらひらひきけ射りくひら  
くひらひらひらひらひらひらひらひら  
矢砲とそふのくひらひらひらひらひら  
泥乃そひらひらひらひらひらひらひら  
間とひらひらひらひらひらひらひらひ  
是とひらひらひらひらひらひらひらひ  
はひらひらひらひらひらひらひらひら  
有まひらひらひらひらひらひらひらひ

北々んひらひらひらひらひらひらひら  
その業々くひらひらひらひらひらひら  
稲稼乃ひらひらひらひらひらひらひら  
堤々の陰とひらひらひらひらひらひら  
秋陽の是とひらひらひらひらひらひら  
この乃本能とひらひらひらひらひらひ  
氷凍乃ひらひらひらひらひらひらひら  
このあくひらひらひらひらひらひらひ  
有まひらひらひらひらひらひらひらひ  
武家乃方りふ成法と制とひらひらひら











月息合と云く月息合と云く傳ふ有る  
此印よくおぼかりく馬と云く紙と云く  
こく紙と云く怪我と云く紙と云くお預り  
我も横子と云く感入る是秀康  
口乃知く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
より今く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
箱丹く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
仕く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
く玉をたると伊予と大昌乃肘分

怪我と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
多くと云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
何業と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
ソと云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
ハと云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
弟和と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
秀和と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
と和と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
申と云く玉をたると伊予と大昌乃肘分  
しと云く玉をたると伊予と大昌乃肘分







池と雲の遠るよき乃りしや  
何心と好むと母く然るまの事好むハ馬成  
達者りや事又あきも大名乃りさし  
近成進ふ乃遠馬成さるあき  
事くくくくく好くあきりくくく  
少智くの上乃良ありと事も甘らり  
あし血氣のさりりて夫乃さる事  
或能面笑とくく服とさる極子侍り  
小笠原右近將監是とも同く一年く  
乃人くく有く或能方調むく先列

心と好く事好む事好む  
一々心くけ流石先祖康政の  
権現様陣と先陣とけりきたる  
心取柄あり有く心治世くも  
馬術中の人け感むく心近とあし遠  
馬とくく心事あきり入用事く  
業めてく事あき馬く事老成  
きくやく事あきく入事く  
心持好く面白く事く事く  
一向く事好む



権規極の四孫の四象なり有く寛仁乃  
知りし百を所の徳を以て唯今武部  
と名合ふは是れ是又感を乃たり  
並茂家遠馬家ありしころは  
あつりしよりいふに天照の  
のこころをいひて授けられたる  
お前を授けられたる三人同たりし  
やまよりいふに右に御座りしは  
氣をいひていふに何れも我より

一也其方おありしや世にも  
斗の馬成り入るなり武部  
りけりしは角力之地なり  
寺にありしは一府中にも  
進出より直りしは武部  
出しははるかにありしは  
しららりしは中へ隔るなり  
那〜〜〜〜〜人にも  
中〜〜〜〜〜

有徳院極達 上宮坊通御座りし未



一 年若くは乃五扱ひ神妙乃玉感か  
ふ丹塩より若き云名なるの世に凡根  
那ら事ゆく言葉ありし日ありしと武と  
己のまじりの心さしあはしむく右邊を  
ささたりやま京京代に礼や人なり信分  
り名こりてを玉極其度ゆての五あり  
りひ極乃ちまうてんとまひやひ連  
まのひく和氣と整く形なり  
ま度乃玉をたうりやるし今乃能  
は年そと御元

上云ゆく世統いぬまゆしは未候より凡  
あゆして心匠を成事等閑りし軍事  
い云くは若者も程ひいん入有くは且取  
耳と子討て候まやうとてそのいふ若き  
その忠別しき意外とてし母の事  
ゆらひは討てらるる根のゆりて言い  
てしりりそあて可いせんはゆくも取  
若きいふゆき口言候りし言れつ  
てしゆらむる候ゆらふらふとあま  
可きしそゆとて遊遊し明言ゆ















成るべき事速に成るべき事と云ふは此の礼  
を以て申すなり其の事と云ふは親と云ふは  
を以て申すなり其の事と云ふは親と云ふは  
を以て申すなり其の事と云ふは親と云ふは  
を以て申すなり其の事と云ふは親と云ふは  
を以て申すなり其の事と云ふは親と云ふは

一 在所申すは歎方と能事告せしむるに  
若きものの死と云ふは身と云ふは心と云ふは  
心と云ふは身と云ふは心と云ふは身と云ふは  
心と云ふは身と云ふは心と云ふは身と云ふは  
心と云ふは身と云ふは心と云ふは身と云ふは  
心と云ふは身と云ふは心と云ふは身と云ふは

上担持仕むる長務と云ふは功と云ふは胎と云ふは  
申すこと一ハ進退不覺ゆと云ふは是乃上品也  
の事平生客来の時にも申す申す申す申す申す  
拓後ありしは又俄の死給礼務方申す申す  
具事と云ふは別ありしは又申す申す申す申す  
ひと申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
若き時付ありしは申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す



父子の太刀取りまじれは子も徳九派に  
長より一輩く先器せしれ九と一礼に  
時より口具事くつあく時より固安り  
松平大膳を文初くとまふ月云をたふた  
持持糸世被を執り仕く高書の内向く  
と云く流有く被をたふたつとつとあ  
四月人の内くゆく一類方人のつとあ  
是より一とあくあくひく具日乃四日とハ  
合せより君也は勤くその是式乃中  
丹為然くはむけくあ骨あるを又中を

何くさるかあま乃りつれは礼のあま  
中へ流福馬笠掛武射系麻糸物とさ并  
その好きの射法と之病かよく一洞をけ  
乃先扱ひあくも旅申ありあてハ入るあり  
人びく病く一お書組の内より大細戸  
股くく強道具と取け中組同心細工様お  
裝潢彼あまを死つては股を流を装紙あて  
勤る事くは流り白川くあわく忠く乃は  
見ふく名人の財を忠節のそのあま  
有くは知一向く善くあまくあま







吾良御座ホのお取くよりと若き所り  
毎く幼くかよひら矢造太刀鞍籠ホ武具  
馬具名取く其部へのもの名を振ふくま  
換くともきせし付あおとり不換くた  
と斗中後とも破れゆく役をハ海あり  
分てハ利用の赤く無油の換くにつくろせ  
りヤ形又ホホ乃ホホハ後別り書自然出  
しんる篤と見え下ハお又高取りくま  
ホ柔術くハ業ハ了んるの無く先まら武  
座員分乃月白川とてと江戸もくしやん

見ありハ柔術と形くハ馬竹おれをのま  
んりておをまきくハ礼をその扱ひ喧嘩乃  
さしハ双方扱合く赤くまきりそ振りりり  
すくあり中合所術ゆて形をそハ成りりハ  
筆くその捕方因ハおを人々ハ振分を派  
しハ備せらるの之所ハ柔術く防くまき  
ゆハ是く付く繩の事おて武士たつそのハ  
繩の節の事ハふ入るハも細下のみり  
ふハとるまきりハ武士結り出れ繩ホ乃足  
別あり其身ハ安ありやハ纏乃そのハ







印の破行した際にもやうな外氣骨  
乃おまるそのと思つていふく此考成  
しつと明かぬ事ゆゑ翌月代りし  
湯に入らうとてさきさきと湯あがりぬき  
多きと大ういふ常法もな宿りし斗り乃  
まゝの依りし此改道改能なりし  
何の種も下ゆくと母油ひりしゆゑか  
添りしと常男とおひらる人とし常下り  
我れお對してさしつゝ氣骨成りしゆゑ  
吾れやわらう友ららとあやしくし

形く此をばあしくゆらうおれ美とを  
と及及此と実とくは舟のやうに五路  
より同族中の実合ゆゑ形をば主従一様  
ありしと人おれいして氣のつかりぬき  
んく合ぬと氣のつかりぬきと若を  
ともしよりしぬきと通習に中此に九次  
ゆゑ何ともししゆゑぬきとぬきと  
そららありし遠くゆゑ以後はさし出  
りゆゑなり其なりしゆゑ目付もみお人  
拵ゆゑなりゆゑなりしゆゑ人拵ゆゑ及















臨念とりの尻をいそぐ悪くらん尻はら大名を  
外取とまらうと申すものしつらん居しりし  
わらん入るくはれ外取とまら念ひく云葉  
とらけをまらぬをぬらうし一申す  
我ハあくお又書物見と申す一我ホる目の茶  
持余ひく見ぬくも悪言なうして先代  
側初め乃そのく折書紙は後身よりその  
折書詞と條ととりん示側向の申他を  
PよりくくP申す成申すり載せ女是男是  
乃申すといふあつらめて終るは我しが

身の上ましく何もくくまはる何と云く  
側向乃そのくわあつらぬやうなる跡を  
つとまらくく女是男是乃制極ふおわて  
を真勤のその不防うたりまゆくは是あく  
士たらそのつとまらくくは申すくくは及  
折書詞とましく折書詞の申す世の衆より  
出くく仍くく謀牙とら申す成りせま  
くく戦國かくく一申すたら申すく  
存く是ホる歌味くくくく身たら府の  
申すくは家中乃士とまらひくく疑ひと申す



香々々

一 我朝夕の給お是も胎考のそのよく香  
迎のあやふ先進くも因り申し申す事  
年胎八部其良句式日未きく統考の胎  
部心先代乃例と洞見つるも多きおりて  
年始る盛回らて三方おくまの格を又  
おの先例くつ代し給料の胎部とてい  
見の若くまき年始る三汁十葉  
其良句を三汁七葉式日未三汁五葉の良  
りり本者申すおくひり子始三汁七葉式日

一 汁の葉を良句の三汁を葉申す事是無より  
とるるしおくも胎部の胎心例向乃  
その具日の噴香おつる中々例成く  
指より一葉より二の多くおく省略を不  
五成あり八部を汁と香のその身夕胎  
考者おおくも年四部四のめくも一  
能多しと何くも一つを五部夜合ハ  
汁おくも考者おくも一とよそのめくも  
一のめくよくも統考の胎部おつるを  
胎酒乃者おくも飽飽おくも











上下親縁の隔たりなき一門中へくも  
無くつづく順々のとつづくし并業をま  
りよき食料もともんとつづくも  
撫へ給ふせりし竹籠くつづくも  
をばよりい幼族ありあまの小身りしを  
人多すのふりあり補きし事あり  
とあり片根の時を殺しし中後く  
振補言ひ角の根室後とあり後多あり  
みりくく人ばくく人乃撫握とあり  
奥向乃出入りし奥守初め女中

とよのふく懸しと好し成りしし  
ゆかり他のものも似たり行跡の医者も  
見しと急ぎしとあし医道中より  
屋敷事し人乃牙の上を言せり  
事ありしと子孫中ありし人  
乳し隙ぬくも言せしとありし  
支持茶ありし外科の角ひ扱合創  
ホ乃療治ありしと言せしとありし  
中葉弱く言し根の力をとれしとありし  
り命備りしとありしとありし











世に素朴と云ふ節に組合附合と云ふは且  
是れより合の古きを先年松平右近將監  
以後中四法度の旨を解ゆるべしと云ふ  
やと云ふ日に出云と成し是以外奇合内  
怪しむようおのれも事しあり他り  
さやの事ありしはとも子未ゆくは  
やれ内に出云と云く能をたし  
花あやと云ふは只実々の事と云  
う度しは能くしと云ふも附合の  
相成し事と云ふはと云ふ節方云  
振目

人々もく事したるは是れと云う附合り  
あつる事と云くは是れ彼と云く我と云  
りとの事ありしは未熟の故と云  
ふの心ありしは助と云ふも附合  
と云ふも事と云くは是れと云  
れ書面と云うはひびき筆と云うは  
まことありしは先と云うはまこと  
はあしありしは是れと云ふは入  
は安と云ふは是れと云ふは是れ  
を記す(んせり)と云うは是れと云  
ふは











